

国際シンポジウム

対面開催 (定員:先着100名)

沖縄から考える「慰安婦」問題

—宮古島「慰安婦」のための碑15周年とアジア—

プログラム

- ◆ 全体進行:宮城 公子(沖縄大学 名誉教授)
- ◆ 第2部進行:川満 昭広(インパクト出版会 代表)
- ◆ コーディネーター・全体討論進行:洪 琬伸(沖縄大学 国際コミュニケーション学科 准教授)
- ◆ 通訳者:金 美恵(東京大学 特任研究員)・李 裕珍(戦争と女性の人権博物館・日本連帯担当)
- ◆ プログラム
開会挨拶:山代 寛(沖縄大学 学長)
第1部 日本軍「慰安婦」・強制動員問題の現在
休憩
第2部 沖縄・宮古島から考える「慰安婦」問題
全体討論
閉会挨拶:中原 道子(早稲田大学名誉教授/宮古島で「慰安婦」問題を考える会共同代表)

2023年 **9月9日(土)**

13:00~17:30 (開場・受付12:30~)

会場:沖縄大学3号館1階 3-101教室

参加費
無料

2015年、「慰安婦」問題についていわゆる日韓「合意」がなされ、被害者支援のため日本が財団を設立するとしたが、韓国内では被害者の「同意」がないと反発が起こった。また2018年、韓国は戦時の強制労働被害者への賠償を命じたが日本は拒否。韓国企業による問題解決を急ぐ「解決案」も韓国内では激論となったがその声は日本に十分に伝わっていない。沖縄では70年代から「慰安婦」問題が着目され、2008年には宮古で証言者たちが主体となりアジア初の「碑」が建立された。今回、沖縄で「慰安婦」を考える意味についても、韓国の言論状況とともに検証したい。

多くの皆様のお申込、お待ちしております。

※9/5(火)までに要事前申込!!

※講座終了後、アンケート(メールで回答フォーム URLをお送りします)への回答にご協力ください。

申込先【Googleフォーム QRコード】

※本学HPに申込先URLも掲載しております。氏名・連絡先・所属等を入力の上送信してください。お申し込みされた方へ、講座日の1週間前までに、お申し込み確認メールをお送りします。メールが届かない場合は前日15時までに地域研究所までお問い合わせください。
当日は12:30~12:55の間に受付を行います。



土曜講座申込

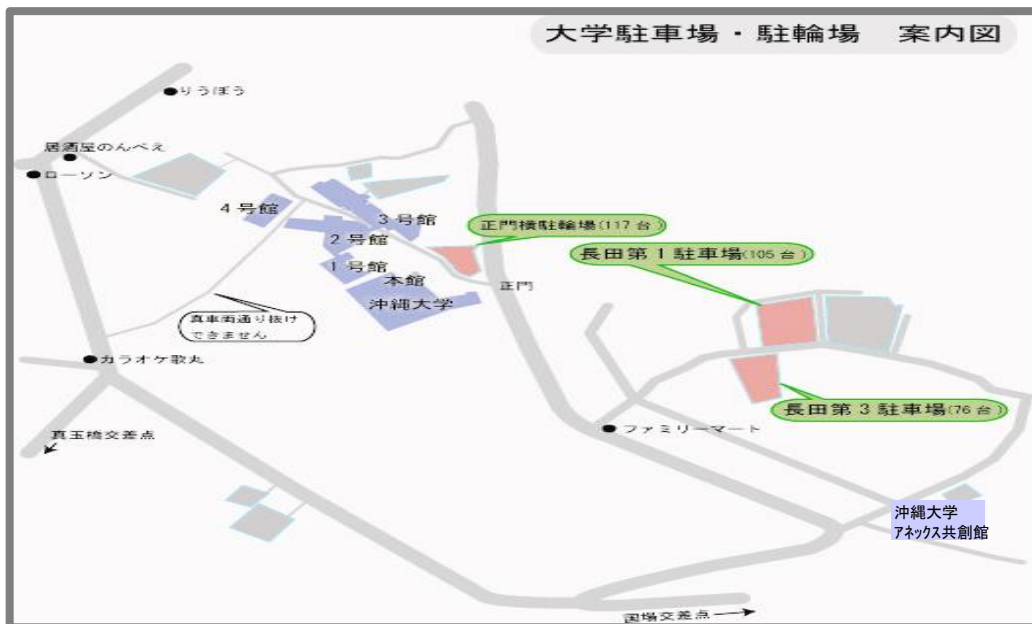
問い合わせ先:沖縄大学 地域研究所
(沖縄県那覇市国場405)

窓口:平日 8:30~17:15
(12:00~13:00 閉室)

Tel:098-832-5599

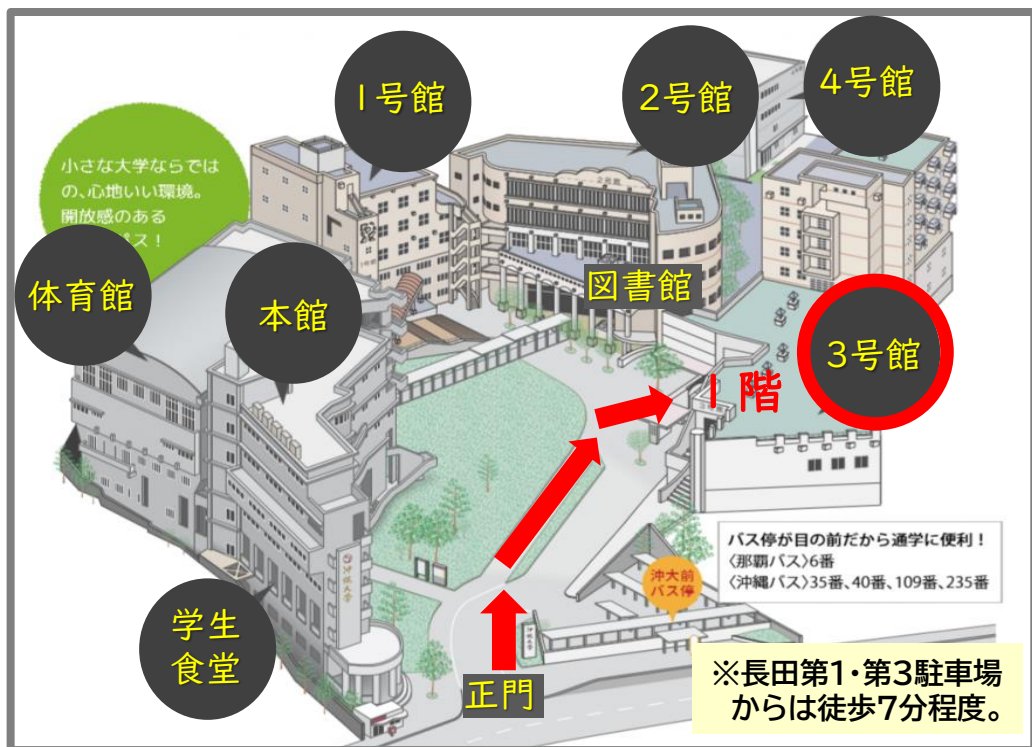
Mail:chiken-staff@okinawa-u.ac.jp

	登壇者	演題
【第1部】 日本軍「慰安婦」・強制動員 問題の現在	金 昌祿 キム チャンロク(慶北大学 教授)	韓国大法院強制動員判決と歴史否定論
	藤目 ゆき(大阪大学 教授)	『占領軍被害の研究』を書いた問題意識としての「慰安婦」・戦後補償・沖縄
	李 娜榮 イナヨン(正義連 理事長/中央大学 教授)	「日本軍性奴隷制度」と歴史否定論
	朴 貞愛 パク チョンエ(東北亜歴史財団 研究委員)	日本軍慰安婦「被害否定論」の起源と「慰安婦」研究方向についての提言
	謝花 直美(元沖縄タイムス 記者) 洪 琬伸 ホン ユンシン(沖縄大学 准教授)	第1部 コメント
【第2部】 沖縄・宮古島 から考える「慰安婦」問題	高里 鈴代(基地軍隊を許さない行動する女たちの会 共同代表)	沖縄における「慰安婦」問題
	宋 連玉 ソン ヨンオク(青山学院大学 名誉教授)	貧困という植民地支配と公娼制度・朝鮮人女性の動員と「遊郭」の女性たち
	梁 鉉娥 ヤン ヒョンア(ソウル大学 教授)	日本軍「慰安婦」問題のアジア性と宮古島の住民の「祈念」の在り方
	上里 清美(宮古島で「慰安婦」問題を考える会 共同代表)	母の記憶から向き合う「慰安婦」問題
	山城 紀子(フリージャーナリスト) 宮城 晴美(沖縄女性史研究家)	第2部 コメント



◆ 駐車場のご案内 ◆

お車でお越しの方は、下図の**長田第1・第3駐車場**をご利用ください。



◆ キャンパスマップ ◆

正門からまっすぐ上がって右手の建物の自動ドアに入って目の前の教室(3-101)です。
教室前で受付を行いますので、なるべくお早めのご来場をお願いします。
(受付時間:12:30~12:55)

